

2 附属図書館

本学附属図書館は、その将来構想を設定するに当たり、大学図書館基準、学術審議会・中央教育審議会の答申、報告、更に、社会からの要請等を取り入れ、これからの目標として、

- ① 情報の収集及び発信、管理、保存基地としての図書館
 - ② 研究、教育、学習の場を提供する図書館
 - ③ 社会の要請に応える開かれた図書館
 - ④ ゆとりある図書館
- をあげている。

2.1 図書資料

2.1.1 蔵書冊数

(現状)

平成 16 年度・17 年度と蔵書冊数は約 1 万冊増加している(資料 2.1.1.-1)。現在図書館管理の図書は約 73 万冊近くになっている。このうち開架図書は約 27 万冊、書庫内図書は約 35 万冊、研究室貸出図書は約 11 万冊である。利用者は開架・書庫内図書も自由に閲覧できる。

ただし、少しずつであるが、毎年蔵書数が増大し狭隘化が進んでおり、早急に対策を行う必要がある。狭隘化解消策として平成 16・17 年度に本館の複本調査を行い、売り払い及び廃棄処分をして書庫内を整理したが、根本的な対策になっていない。

(評価)

文部科学省の大学図書館実態調査を基に本学と同規模大学の図書館の蔵書冊数を比較すると、蔵書冊数は平均的であり全国レベルには達している。

資料 2.1.1.-1 蔵書冊数

(冊)

	蔵書		合計
	本館	分館	
平成 17 年度	611,963	116,874	728,837
平成 16 年度	604,825	113,492	718,317
平成 15 年度	591,410	109,606	701,016
全国平均	—	—	611,819

※「全国平均」は、「平成 16 年度大学図書館実態調査」による平成 15 年度の 2~4 学部の国立大学の実績数である。

2.1.2 年間受入図書冊数

(現状)

大学図書館実態調査結果報告と比較すると、本学は、年間受入図書冊数は平均以下である。

本館は、平成 17 年度は 16 年度より購入数は減っている(資料 2.1.2.-1)。しかしその中で、外部資金で購入した図書が少し増加している。分館においては、平成 16 年度に学部長裁量経費に確保した学生用図書購入費が平成 17 年度は確保できなかったことを反映して、購入数が減っている。

(評価)

年間受入図書数は、全国レベルに達していないものの、購入冊数については達している。

資料 2.1.2.-1 年間受入図書冊数 (冊)

	年間受入図書		うち購入分		うち外部資金分	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館
平成 17 年度	8,283	3,382	7,081	1,120	456	204
	11,665		8,201		660	
平成 16 年度	9,607	3,886	8,588	2,041	355	196
	13,493		10,629		551	
全国平均	13,333		6,398			

※「全国平均」は、「平成 16 年度大学図書館実態調査」による平成 15 年度の 2~4 学部の国立大学の実績数である。

2.1.3 分野別図書収集状況

(現状)

本館では、分野別に統計をとると(資料 2.1.3.-1)社会科学が多く、分館では利用を反映して自然科学分野、中でも医学分野の専門書が大半を占めている。分野ごとに偏りはあるものの、分野横断的な新書シリーズを継続購読することなどにより、他分野の図書の収集にも配慮している。

(評価)

本学の学部構成にあった、分野別収集になっている。

資料 2.1.3.-1 平成 17 年度分野別図書収集状況 (冊)

区分	本館	分館	計	区分	本館	分館	計
総記	284	19	303	技術	627	30	657
哲学	336	55	391	産業	331	10	341
歴史	635	53	688	芸術	216	19	235
社会科学	4,149	118	4,267	言語	421	38	459
自然科学	818	3,003	3,821	文学	466	37	503
				合計	8,283	3,382	11,665

2.1.4 年間受入雑誌数

(現状)

本館においては、多くの雑誌の購入は教員研究費等によりまかなわれており、その経費が平成 17 年度は減少している。そのため雑誌購入数が減っている。分館については、外国雑誌の高騰により講座等が購読しているタイトルの中止が増えている。(資料 2.1.4.-1)

また、大学図書館実態調査結果報告と比較すると、購入分は、概ね平均値であるものの、購入以外による雑誌(寄贈雑誌)のタイトル数がかなり少ない。

(評価)

購入雑誌タイトル数については、全国レベルに達している。

資料 2.1.4.-1 年間受入雑誌数 (タイトル数)

	本館		分館		合計	
	受入雑誌	うち購入	受入雑誌	うち購入	受入雑誌	うち購入
平成 17 年度	1,056	1,001	940	609	1,996	1,610
平成 16 年度	1,151	1,097	982	649	2,133	1,746
全国平均					4,028	1,868

※「全国平均」は、「平成 16 年度大学図書館実態調査」による平成 15 年度の 2~4 学部の国立大学の実績数である。

2.1.5 年間図書資料購入費

(現状)

本館においては、17 年度は教員研究費等の減少により、図書・雑誌購入費が極端に減っている(資料 2.1.5.-1)。図書購入費は減っているが、時代の趨勢を反映して電子ジャーナル経費は増加している。今後は、ますますこのような傾向が続くと思われる。

分館については、外国雑誌の高騰及び電子ジャーナル購読維持のために図書購入費が減少する分講座等が購読しているタイトルの中止が増えている。

資料 2.1.5.-1 年間図書資料購入費 (千円)

区分		年度	H17	H16
図書購入費	本館	図書館	11,252	11,788
		学部	17,553	21,352
	分館	図書館	9,698	13,844
		学部	7,366	6,177
新聞・雑誌費	本館	図書館	2,565	3,389
		学部	34,458	43,703
	分館	図書館	31,838	29,489
		学部	23,748	23,991
電子ジャーナル	本館	図書館	13,931	10,608
		学部	0	0
	分館	図書館	2,532	0
		学部	492	0
合計	本館	図書館	27,748	25,785
		学部	52,011	65,055
	分館	図書館	44,068	43,333
		学部	31,606	30,168

(評価)

図書資料費の安定かつ継続的な確保が必要である。

2.2 利用者サービス

2.2.1 開館日・開館時間

(現状)

本館・分館とも、年末年始を除く年間を通して開館している。(資料 2.2.1.-1)本館では平成 12 年度から開館時間を延長し、平日は 22 時まで、休業期、土曜、日曜並びに祝日も 19 時まで利用できるようにしている。また、分館では 24 時間開館を実施している。(資料 2.2.1.-2)

(評価)

本館・分館共に開館日、開館時間は高く評価できる。

資料 2.2.1.-1 開館日・開館時間

年度		H17	H16	H15
年間開館総日数	本館	358	355	356
	分館	357	357	358
土曜開館日数	本館	49	51	50
	分館	50	51	48
休日開館日数	本館	63	65	65
	分館	65	65	63
土曜開館総時間数	本館	443	459	450
	分館	350	357	336
休日開館総時間数	本館	569	585	585
	分館	455	455	441
休日時間外開館時間数を除く 時間外開館総時間数	本館	1,515	1,509	1,500
	分館	726	723	738
1日あたりの時間外開館時間数 (平日)	本館	5	5	5
	分館	3	3	3
1日あたりの時間外開館時間数 (土・日、祝)	本館	9	9	9
	分館	7	7	7

資料 2.2.1.-2 開館時間

期 間	本 館	医学分館
月～金	9:00～22:00	9:00～20:00
月～金－休業期	9:00～19:00	9:00～20:00
土・日・祝祭日	10:00～19:00	10:00～17:00
年末年始(12/28～1/4)	休館	休館

2.2.2 閲覧サービス体制

(現状)

本館 4 名、分館 3 名で閲覧サービスと相互貸借業務を担当し、常時 2 名を閲覧カウンターに配置する体制をとっている。(2.2.2.-1)

また、夜間開館時には、常時 2 名の非常勤職員を配置するなど閲覧サービスの充実に努めている。ただし、高度化する図書館サービスに対応するためには、増員も必要である。

(評価)

現状の体制の中では、十分評価できる。

資料 2.2.2.-1 閲覧サービス担当職員数の推移

(人)

年度	常勤職員		非常勤職員		派遣職員		合計		時間外職員(※)	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
17	1	1	2	1	1	1	4	3	2	2
16	2	2	2	1	0	0	4	3	2	2
15	2	2	3	1	0	0	5	3	2	2

※ 時間外職員は体制人数

2.2.3 利用対象者数

(現状)

本館では、平成 16 年度、平成 17 年度と比較した場合、一般利用者登録者数の減少を除いて、ほぼ利用対象者数は変わらない。(資料 2.2.3.-1)ただし、平成 16 年度の一般利用者対象者数(登録者数)については、それ以前のすべての一般利用者証を新規カードに切り替えたために一時的に登録者数が増加した。

分館では、平成 16 年度に比べて平成 17 年度は院生の利用対象者数が大幅に減っているものの、平成 16 年度より、「一般利用者用コーナー」を新設したこともあり、一般利用の登録者は少しずつ増えている。なお、本館に比べ一般利用者の登録者数が極端に少ないのは、地理的要因、駐車場問題などが考えられる。

(評価)

一般利用者の登録は順調であり評価できる。

資料 2.2.3.-1 利用対象者数

(人)

年度	学生数		院生数		教職員数		一般利用者数		合計	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
17	4,422	838	502	191	648	1,152	1,200	40	6,772	2,221
16	4,419	846	521	375	650	1,152	1,460	24	7,050	2,397

2.2.4 入館者数

(現状)

本館の最近の入館者数は、年間 360,000～370,000 人という数字で推移している。(資料 2.2.4.-1) これは同レベルの大学と比較しても多い人数である。また一般利用者の入館者数も平成 15 年度の 15,371 人をピークに毎年 12,000 人前後と多く、表中には出ていないが特に最近は高校生の利用者数の増加が顕著である。

分館では学外者の入館数にばらつきがあるものの、入館者全体では毎年確実に増えている。これまでは毎月第 4 木曜日を館内整理日として閉館していたため、閉館日には時間外登録をしている利用者しか入館できなかったが、平成 17 年度途中より、利用者の利便性向上のため、館内整理による閉館日をなくした。このことにより平成 17 年度は前年度に比べ 3,000 人以上の入館者数の増加となった。

(評価)

入館者の多い図書館として高く評価できる。

資料 2.2.4.-1 入館者数 (人)

	入館者数		一般利用者数	
	本館	分館	本館	分館
平成 17 年度	360,062	98,700	11,668	1,235
平成 16 年度	371,793	95,438	12,416	869
平成 15 年度	364,658	94,408	15,371	1,194

一般利用者数は入館者数の内数

2.2.5 資料の貸出

(現状)

本館では、一部の禁帯出資料を除いて大部分の図書・雑誌資料が貸出対象となっている。また、院生以上の研究者を除いて、学生並びに一般利用者には 5 冊以内、2 週間(図書)、1 週間(雑誌)の貸出条件を設定している。また、一般貸出のほか、特別貸出や卒業論文用貸出などの貸出種別を設けて、学生への利便性の向上を図っている。さらに一般利用者にも学生同様の貸出条件を適用している。ただし、期限内に返却しなかった延滞者には当日のみ貸出禁止のペナルティを課している。

分館では、書庫内図書もなく卒論提出者のための特別枠も設けていない。また、貸出条件表には載せていないが、延滞日数に応じてペナルティを課している。これは、代替本又は複本が少ないため貸出回転率をよくするためである。(資料 2.2.5.-1, 資料 2.2.5.-2)

(評価)

従来からの経緯をみても、資料の貸出しにおける冊数及び期間とも問題ないと思われる。

資料 2.2.5.-1 本館貸出条件表(利用規程第7条第2項関係)

区 分	貸出冊数及び貸出期間			
	本学教官	本学大学院学生等※	本学職員(教官を除く), 本学学部学生, 一般利用者	卒業論文等を提出する者
開架図書 (雑誌を含む)	5冊以内 2週間	5冊以内 2週間	5冊以内 2週間	5冊以内 1か月間
書庫内図書	200冊以内	20冊以内 1か月間		
備考: 上記の期間にかかわらず, 雑誌の貸出期間は原則として1週間とする。 ※本学名誉教授, 非常勤講師・医師, 研究員を含む				

資料 2.2.5.-2 分館貸出条件表(利用規程第8条第2項関係)

区 分	貸出冊数			貸出期間
	職員及び大学院生	学部学生等	一般利用者	
図 書	10冊以内	6冊以内	6冊以内	2週間
製本雑誌 未製本一般雑誌	5冊以内			1週間
未製本学術雑誌	5冊以内			2日間
一般利用者 貸出資料	6冊以内	6冊以内	6冊以内	2週間
合計 貸出冊数	10冊以内	6冊以内	6冊以内	

2.2.6 貸出人数・貸出冊数

(現状)

本館の貸出人数は, 学生, 教職員は, 多少増減はあるものの一定の水準を保っている。また, 一般利用者については着実に増加している。(資料 2.2.6.-1)

本館の貸出冊数は, 平成17年度では前年に対し, 学生, 教職員とも減少しているが, 一般利用者は平成15年度から平成17年度にかけて約4,000冊も増加している。分館では, 学生及び一般利用者の貸出人数・貸出冊数ともに増加が見られる。(資料 2.2.6.-2)

特に一般利用者の伸びが顕著であるが, これは一般利用者コーナーに加え, 雑誌を除く一般図書も学内者と同様に借りられるようになったことが一因と考えられる。

(評価)

利用対象者数からみても, また貸出人数, 貸出冊数とも増加傾向にあり, 評価できる。

資料 2.2.6.-1 貸出人数

(人)

年度	学生		教職員		一般利用者数		本館 合計	分館 合計	合計
	本館	分館	本館	分館	本館	分館			
17	21,968	6,264	2,192	903	3,574	146	27,734	7,313	35,047
16	22,693	5,538	2,089	971	3,509	39	28,291	6,548	34,839
15	21,813	4,984	2,370	870	2,266	5	26,449	5,859	32,308

資料 2.2.6.-2 貸出冊数

(冊)

年度	学生		教職員		一般利用者数		本館 合計	分館 合計	合計
	本館	分館	本館	分館	本館	分館			
17	41,828	12,703	7,086	1,845	9,879	370	58,793	14,918	73,711
16	44,198	11,455	8,492	1,915	9,706	95	62,396	13,465	75,861
15	41,978	10,359	8,779	2,248	5,870	9	56,627	12,616	69,243

2.2.7 研究室貸出状況

(現状)

本館では、研究費で購入した図書館資料を各教員ごとへ研究室貸出として実施している。(資料 2.2.7.-1) 貸出手続については、現在は原則としてコンピュータにより貸出をしているが、目録データ化されていない古い資料については、過去に借用券による貸出を行ってきた。研究室貸出冊数は、全蔵書冊数の約 13%にあたる約 80,000 冊程度にのぼる。また借用券による貸出冊数は、全研究室貸出冊数の 23%程度を占めているため、コンピュータ管理の対策を講じる必要がある。ただし、現在は借用券による貸出手続きを行っていないため、借用券による貸出冊数は、定年退職などのため、今後減少していくことが予想される。

分館の研究室貸出図書は全体の 20%程度であるが、これは経過年数等による廃棄処分対象から除外されるため、今後も割合が少しずつ増えていくことが予想される。

(評価)

借用券による貸出を減らす努力が必要である。

資料 2.2.7.-1 研究室貸出状況 (人)

区分	本館	分館	計
平成 17 年度	80,322	22,234	102,556
平成 16 年度	85,305	21,285	106,590

2.2.8 予約サービス体制

(現状)

本館では、利用者の申込み方法として、従来からのカウンターでの申込みがあるが、平成 17 年度から利用者自身により、マイライブラリや所蔵検索画面上からも申込みができるようになった。また、教員の研究室貸出による図書館資料への対応もしており、これについてはカウンターで申込み必要がある。(資料 2.2.8.-1)

分館では、以前より利用者自身が予約システムを使うようになっている。学生・教職員数は本館の 5分の1程度であるが、予約システム利用件数に大差はない。これは蔵書構成に医学系図書が多く、利用者自身が購入するには高額であり、また、複本や代替本が少なく、予約システムを利用して図書館資料を借りる利用者が多くなるためである。

(評価)

予約サービス体制は充実しており十分評価できるが評価できるが、予約件数が多いとは言えず、今後PRの必要性がある。また、常に予約が殺到する図書は追加購入を検討する必要がある。

資料 2.2.8.-1 総予約件数 (件)

年 度	本館	分館	計
平成 17 年度	394	280	674
平成 16 年度	354	385	739

2.2.9 参考調査

(現状)

本館では参考調査件数については、1年間で約7,000件程度、1日あたり約19件程度の問い合わせ等がある。(資料2.2.9.-1, 資料2.2.9.-2)また、学内利用者に比べ、一般利用者からの調査件数が相対的に多い。最近ではコンピュータによる所蔵検索、文献情報検索やデータベースの利用指導並びに事項調査が増加している。

分館では、所蔵調査が殆どであるが、最近では図書館ホームページのOPACを確認して、一般利用者が来館、又は電話による問い合わせのケースが増えている。分館で利用できる医学系のデータベースを目的に来館する一般利用者も増加傾向にある。

(評価)

大学図書館のサービスが学外にも浸透したことは評価できる。

資料 2.2.9.-1 利用者別参考調査件数 (件)

年度	学生		教職員		一般利用者数		合計	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
17	2,228	637	3,342	633	1,334	315	6,904	1,585
16	1,954	521	2,930	518	2,190	258	7,074	1,297
15	2,081	694	3,121	694	1,208	344	6,410	1,729

資料 2.2.9.-2 内容別参考調査件数 (件)

年度	文献所蔵調査		事項調査		利用指導		その他		合計	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
17	2,787	1,014	1,068	33	2,136	490	913	48	6,904	1,585
16	3,056	830	724	26	1,810	402	1,484	39	7,074	1,297
15	3,439	1,106	714	35	1,428	536	829	52	6,410	1,729

2.2.10 情報検索

(現状)

図書館内で主要新聞の記事データベースおよび判例の検索が行える環境を整えている。(資料 2.2.10-1)

本館では、新聞記事及び判例の検索データベースについて主要なものを CD-ROM, DVD で提供しており、分館では主要な医学、看護、薬学系のデータベースを WEB 上で検索できる環境を整えている。

(評価)

本館、分館とも、利用者の要求を満たす検索データベースは整備され評価できる。

資料 2.2.10.-1 情報検索データベース

本館	日経 4 誌全文記事検索 (CD-ROM 版)
	戦後 50 年朝日記事見出し (CD-ROM 版)
	明治・大正・昭和読売新聞 (CD-ROM 版)
	朝日新聞全文記事データベース (WEB 版)
	主要法律雑誌 (DVD 版)
	判例検索 (CD-ROM 版)
	理科年表 (CD-ROM 版)
分館	CINAHL
	Cochrane
	MEDLINE
	医中誌 WEB 版
	Journal Citation Report

2.2.11 電子ジャーナル

(現状)

約 4,600 タイトルの電子ジャーナルを購読しており、主要な電子ジャーナルパッケージは学内の研究室等から全文のダウンロードが可能となっている。(資料 2.2.11.-1)

平成 17 年度において年間のダウンロード回数は約 10 万件である。特に Elsevier 社の利用回数が全体の 70% を占めている。出版社毎に増減はあるが全体としては毎年、利用回数が増加している。ただし、費用対効果を考えるとさらに利用回数を増やすべきである。

(評価)

各分野の代表的な電子ジャーナルは購読しており、購読タイトル数としては水準を満たしているため評価できる。ただし、費用対効果を考え、購読する電子ジャーナルの見直しを行っていく必要がある。

資料 2.2.11.-1 各出版社別電子ジャーナル 平成 17 年度ダウンロード件数

ジャーナル	収録タイトル	タイトル数等	17 年度	16 年度	15 年度
Springer	全分野	約 1500 タイトル	4,689	4,533	3,180

Wiley	全分野	約 520 タイトル	5,527	4,904	6,596
Elsevier	全分野	約 2100 タイトル	69,641	65,820	44,121
IEEE, CSLSP	コンピュータ 24 誌		2,093	1,142	1,803
ACS	化学 24 誌		6,436	4,805	6,462
Nature	本誌 + 生物医学	3 誌	4,578	4,164	2,434
PNAS	自然科学	1 誌	1,413	990	182
Blackwell	理工医学	約 440 タイトル	4,818	5,582	5,186
計			99,195	91,940	69,964

2.2.12 他館利用制度

(現状)

大分県内の大学図書館間では学生証による利用が可能である。また、大分県立図書館の間で相互利用協定を結び、双方で文献複写や現物貸借ができるようにしている。一方、平成 15 年から横断検索を開始し、大分県立図書館と大分大学附属図書館の蔵書を同時に検索できるシステムを構築した。(資料 2.2.12.-1, 資料 2.2.12.-2)

平成 17 年度から、横断検索サービスに新たに 4 大学等が参加しているが、実際には大分県立図書館との相互貸借サービスに役立っている。また、本館から県立図書館への現物貸借依頼が約 86%を占め、一方的に本館が借用する傾向となっている。

分館では、平成 15 年度から横断検索に参加している。また、大学統合に伴い平成 17 年度より大分県立図書館との相互利用協定に参加したが、PR 不足の面もあり現在まで相互利用には至っていない。

(評価)

横断検索への参加館を増やす必要があるものの一定の評価はできる。

資料 2.2.12.-1 横断検索参加館

平成 17 年度	大分大学, 大分大学(医学分館), 大分県立図書館, 別府大学, 日本文理大学, 大分県立芸術文化短期大学, 大分工業高等専門学校
平成 15・16 年度	大分大学, 大分大学(医学分館), 大分県立図書館

資料 2.2.12.-2 大分県立図書館との相互協力状況 (件)

内 訳	本 館		分 館	
	依頼	受付	依頼	受付
平成 17 年度	119	20	0	0
平成 16 年度	102	16	—	—
平成 15 年度	37	21	—	—

2.2.13 相互貸借利用状況

(現状)

資料 2.2.13.-1 の相互貸借利用状況のとおり、全国平均に比べ文献複写の依頼件数が多く、文献複写の受付件数及び現物貸借の受付、依頼件数はほぼ平均レベルである。文献複写依頼件数は減少傾向にあるが、これは電子ジャーナルの利用が増加しているためと考えられる。

(評価)

本附属図書館は、文献複写依頼件数が多いが、迅速に対応しており非常に評価できる。なお、文献複写受付が時間外開館時できないため、受付できるよう改善していく必要がある。

資料 2. 2. 13. -1 相互貸借利用状況 (件)

	文献複写		現物貸借	
	依 頼	受 付	依 頼	受 付
平成 17 年度	6, 183	3, 734	213	221
平成 16 年度	7, 245	4, 130	191	198
平成 15 年度	8, 897	3, 749	150	190
全国平均(2~4 学部の国立大学)	2, 754	3, 243	197	229

2. 2. 14 図書館の開放

(現状)

図書館の開放事業の一環として読み聞かせ会を月一回程度開催し(資料 2. 2. 14. -1)、大学開放イベントに併せて館内において貴重書展や廃棄図書の無償配布等を実施している。(資料 2. 2. 14. -2)

(評価)

図書館の取り組みとして読み聞かせ会を行い、また、本館所蔵の特徴を生かしたイベントを企画するなど評価できる。

資料 2. 2. 14. -1 読み聞かせ会

区 分	開催回数	児童	保護者	合計
平成 17 年度	8 回	68 名	47 名	115 名
平成 16 年度	7 回	92 名	65 名	157 名

資料 2. 2. 14. -2 図書館のイベント (人)

年 度	実施概要	来館者数
平成 17 年度	平成 17 年 11 月 6 日(日)10 時~16 時 1. 絵本展 ①荒井良二作品展, ②読み聞かせ会(11 時及び 14 時) 2. 廃棄図書の無償配布 3. 写真展(学内の野鳥)	854
平成 16 年度	平成 16 年 11 月 7 日(日)10 時~16 時 1. 貴重書展 ①府内城絵図, ②石垣原合戦絵図, ③豊後国絵図外 2. 絵本展 ①ロシアの絵本, ②仕掛け絵本 3. 読み聞かせ会 4. 廃棄図書の無償配布	948

平成 15 年度	平成 15 年 6 月 1 日(日)10 時～16 時 1. 児童文学講演会(久留島武彦の語りをめぐって) 2. 貴重書展 ①府内城絵図, ②学問ノススメ外 3. 絵本展 ①田嶋記念財団寄贈図書公開 4. 読み聞かせ会	1,319
----------	---	-------